



令和 2 年 3 月 1 日現在	
総世帯数	1,409世帯
総人口	2,553人
男	1,203人
女	1,350人

私が松本山雅の サポーターになって

中条東第4 川上 隆

私がサッカーに興味をもつたのは1968年のメキシコオリンピックで釜本や杉山らによって銅メダルを獲得した時からだと記憶しています。その後アニメで「赤き血のイレブン」が放映され夢中で見たものでした。

それからしばらくは天皇杯やクラブワールドカップを見るくらいでしたが、Jリーグの誕生と共にまたサッカーを見るようになりました。山雅との出会いは2009年天皇杯松本山雅対浦和レッズの試合です。山雅の存在は知っていましたが、当時レッズファンだった私はレッズを見に行ったところ、地域リーグの山雅がまさかレッズに勝ってしまうとは…。ジャイアントキリングでした。それ以来山雅の試合に興味を持ち始めましたが、まだスタジアムへは通うほどではありません



んでした。地域リーグからJFL、そしてついにJ2へと上りつめ、その頃にはスタジアムに通うようになり、席も最初はバックスタンド、そしてゴール裏の隅と、段々と中央寄りへ移っていきました。2014年、奥さんと今年は福岡に観光を兼ねてアウェーに行こうと予定を立てていたのですが、まさかその試合がJ1に昇格が懸かった試合になるとは思ってもいませんでした。大雨の中勝利しJ1に昇格を決めた時の事は今でもいい思い出です。2015年に家を建て替える際、どこに建てようかと悩んだ時スタジアムに通いやすいこの「中条東第4」を選び建てました。この町の住人になったのも山雅の影響です。これからもこの町から山雅の試合に足を運んで行きま

六年生と舞台

小池町町内公民館長 鴻田 益孝

小池町町会と公民館では子ども達との祭りの記録をとり始めています。舞台の彫刻・桃太郎の物語を小冊子にして全戸に配布、歴史上の人物はクイズ形式で楽しみながら、理解を深めてもらっています。私たちの祭りはこのように伝承されていくのでしょうか。今回、天神祭りの舞台について、六年生とお母さんを書いてもらいました。原稿のまま、ご紹介させていただきます。

◆感謝◆

北脇 幸乃丞

「お願いします」おみこしに乗る。こう思えば今日で最後。六年間乗ってきて、ついに今日で最後。めっちゃ張り切る。おみこしに乗ってる時に思った「六年間もおみこしに乗れるのは、そばで支えてくださる地域の方々のおかげだから、心から感謝」そういうことを思った。

おみこしの上は、最初で最後。真ん中に座ってたけど、風が気持ちいい。太鼓は太鼓。支える太鼓だからミスは

出来ない。たたくたびに手がふるえる。その中でやりきった。上では、大きな声で掛け声。今の仲間と、乗ることはないから、楽しんだ。

終わって、地域の方々に「ありがとうございました」と言えて、スッキリした気分。

◆小池町の思い出◆

杉 慧史郎

ぼくは、小学校二年生の時に小池町へ引越して来ました。

小池町に来てから、今までいた町会にはなかった、たくさん行事があることにびっくりしました。

特に思い出に残っている事は、天神祭で舞台に乗って、おはやしを演奏したことです。

松本市の文化財である舞台



に上がるのは、限られた町会だけで、とても貴重な経験が出来たと思います。

本番までの毎週のおはよしの練習で、色々な曲を覚えたりするのは大変だったけれど、今となってはそれもよい思い出です。

ぼく達六年生は卒業して、もう舞台上上がることはできませんけれど、これから先もずっとこの伝統が続いていくてくれたらいいなあと思います。

◆六年間◆

森勢 結奈

泣いて始まったこの六年間。

一年生のころ自己紹介で泣いたドキドキは今も少し記憶にある。一年生の時は「へ〜」と教えてもらっていた私は今では六年生という大きな立場になり教える側だ。そしてこの六年間で一番印象に残っている行事は天神祭だ。初めて乗った舞台はこの乗り物に乗ってどっという意味があるの不思議に思っていたが調べると、この舞台は「松本市重要有形民俗文化財」に指定されていて、私はこんな貴重な体験をさせてもらっている。

(裏面へ続く)



小池町の子供会に入っていたとき知った事。それは、町内の方々の天神祭への熱い思い出す。小池町の舞台は毎年漆を塗ってお手入れをしている

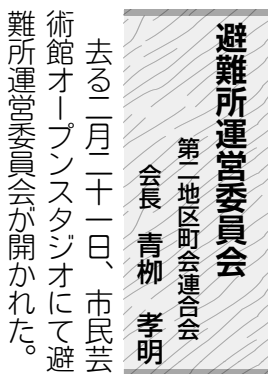
◆小池町の天神祭◆ PTA 菊池 静代 子供が小学校に上がって、小池町子供会に入っていたとき知った事。

これは、町内の方々の天神祭への熱い思い出す。小池町の舞台は毎年漆を塗ってお手入れをしている

これまでの六年間の思い出を振り返ると青山様や神道祭や三九郎など色々あり、これだけの行事が出来て小池町にいてよかったですと思う。これからもこの行事を続けていってほしい。

六年間ありがとうございました。小池町の子供たちです。

きつと、今の町内の方々も子供の頃にこの様な体験をしたからこそ天神祭をより大切に思うのでしょうか。我が子たちもきつと同じ思いを紡いでいくでしょう。



去る二月二十一日、市民芸術館オーブンスタジオにて避難所運営委員会が開かれた。

天神祭はこの様に大切に引き継がれています。百歳になる母さえも、体験したことのない事態が、つぎつぎと起きていく、この時代を生きていく子供たちの「心の糧」、天神祭はその大切な役割を担ってゆくと感じます。

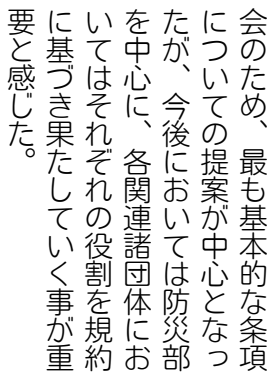
危険管理課の市職員、芸術館関係職員、町会長、関係諸団体、第二地区連合会長及び防災部長など総勢約75名の出席をいただいた。

芸術館避難所運営委員会資料に基づき、市危険管理課からの説明を受け、続いて地域づくりセンター長より、委員会規約及び役員体制の説明があった。引き続き、もう一方の避難所となる第二地区公民館における同様の説明も。

大災害が発生し、避難を余儀なくされる事態が発生した場合の規約及び役割分担が承認された。

第一回目となった運営委員会のため、最も基本的な条項についての提案が中心となったが、今後においては防災部を中心に、各関連諸団体においてはそれぞれの役割を規約に基づき果たしていく事が重要と感した。

2月20日、第二地区健康づくり推進員会と第二地区公民館共催によるスポーツボイス講習会が開催されました。



危険管理課の市職員、芸術館関係職員、町会長、関係諸団体、第二地区連合会長及び防災部長など総勢約75名の出席をいただいた。

芸術館避難所運営委員会資料に基づき、市危険管理課からの説明を受け、続いて地域づくりセンター長より、委員会規約及び役員体制の説明があった。引き続き、もう一方の避難所となる第二地区公民館における同様の説明も。

大災害が発生し、避難を余儀なくされる事態が発生した場合の規約及び役割分担が承認された。

第一回目となった運営委員会のため、最も基本的な条項についての提案が中心となったが、今後においては防災部を中心に、各関連諸団体においてはそれぞれの役割を規約に基づき果たしていく事が重要と感した。

2月20日、第二地区健康づくり推進員会と第二地区公民館共催によるスポーツボイス講習会が開催されました。

音楽健康指導士の小口佳世子先生と佐藤忠利先生の指導により、考案者東哲一郎氏によるプロジェクトの映像を見ながら声を出し音楽に合わせてフィットネスをしました。

参加者35名は、会場いっぱいになり、休憩を挟み約1時間のプログラムで心地よい汗をかき、普段動かさない筋肉が柔軟になるのを感じて終了しました。



最後に現在80歳の佐藤先生が7年前に脳梗塞で倒れてから、スポーツボイストレーニングを行うことにより元気になったとお聞きしその効果に驚きました。

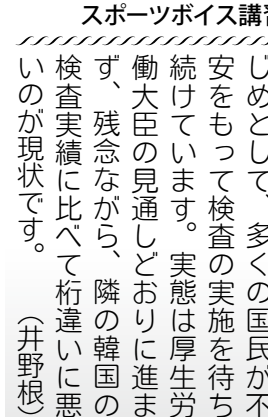
2019年の年末が近づいた頃に中国の武漢で発生した肺炎の集団感染は、年が変った1月6日頃には厚生労働省によって、中国での集団感染は新型コロナウイルスであることが報告されました。

そこに香港で感染者を乗せたと思われる豪華クルーザーが横浜に入港。中国観光客を乗せて感染したタクシーの運転手。その義理の母親が感染して死亡することもあり、事態は急激に深刻さを増してきていた。今日は2月26日。

感染者はまだまだ増え続けていて25日には松本保健所管内での感染者が確認されました。話は変わりますが、今年で終戦後75年になります。長く続く平和に、ともすれば危機感が薄れがちなのではないでしょうか。

国の指導者の慌てふためいたような発言に国民は振りまわされ、感染者増大を伝える毎日のニュースに、妊婦をはじめとして、多くの国民が不安をもって検査の実施を待ち続けています。実態は厚生労働大臣の見通しどおりに進まず、残念ながら、隣の韓国の検査実績に比べて桁違いに悪いのが現状です。(井野根)

2019年の年末が近づいた頃に中国の武漢で発生した肺炎の集団感染は、年が変った1月6日頃には厚生労働省によって、中国での集団感染は新型コロナウイルスであることが報告されました。



危険管理課の市職員、芸術館関係職員、町会長、関係諸団体、第二地区連合会長及び防災部長など総勢約75名の出席をいただいた。

芸術館避難所運営委員会資料に基づき、市危険管理課からの説明を受け、続いて地域づくりセンター長より、委員会規約及び役員体制の説明があった。引き続き、もう一方の避難所となる第二地区公民館における同様の説明も。

大災害が発生し、避難を余儀なくされる事態が発生した場合の規約及び役割分担が承認された。

第一回目となった運営委員会のため、最も基本的な条項についての提案が中心となったが、今後においては防災部を中心に、各関連諸団体においてはそれぞれの役割を規約に基づき果たしていく事が重要と感した。

2月20日、第二地区健康づくり推進員会と第二地区公民館共催によるスポーツボイス講習会が開催されました。

音楽健康指導士の小口佳世子先生と佐藤忠利先生の指導により、考案者東哲一郎氏によるプロジェクトの映像を見ながら声を出し音楽に合わせてフィットネスをしました。

参加者35名は、会場いっぱいになり、休憩を挟み約1時間のプログラムで心地よい汗をかき、普段動かさない筋肉が柔軟になるのを感じて終了しました。

